

吹奏楽団が初公演 第53回総会 松原隆彦氏宇宙を語る

関東同窓会は6月29日、第53回総会・懇親会を東京都千代田区の如水会館で開いた。参加者は昨年を上回る44期から109期までの250人。

総会に先立ち、2013年に日本天文学会の最高賞とされる林忠四郎賞を受賞した天文学者、松原隆彦名古屋大学大学院准教授(83期)が「奇妙な宇宙 宇宙の全体像とその外側」と題して講演した。松原氏が自分の研究室の入り口に、六文銭の旗を張っている写真を紹介すると、拍手と笑いが会場を包んだ。講演は宇宙の誕生と未来という壮大なテーマで、宇宙の年齢は現在138億年であることが最近分かったこと、10億年たつと人間は現在の形はしておらず、1兆年後は太陽も燃え尽きて光る星はなくなり、100兆年後にはどこにも何もなくなるだろう、など、天文学的な数字が飛び交い、科学だけでなく哲学的な観点も含めて、宇宙研究の話が続いた。最後に「タイムマシンはできるか」というテーマで「タイムマシンは時空にトンネルのような穴を開け、そこにマイナス物質を詰めることができれば原理的には



「奇妙な宇宙」について講演する
松原隆彦氏



壮大な宇宙の話に聴き入る

できる」と夢の話に。「しかし、マイナス物質ができるか分からないし、地球上のすべてのお金を集めても足りず、現実的には無理だろう」と紹介。松原氏が「タイムマシンができるのを待たなくても、今回、30年ぶりに会った人(同窓生)もいて、それはタ

新会長に選出された高梨奉男氏

ムマシンで過去に戻るようなものであり、それなら別に作る必要はないかなと思った」と同窓会の講演にふさわしい話題で締めると、それまで普段触れることのない世界の話にじっと耳を傾けていた会場に、温かい笑いと拍手が起きた。

続いて開かれた総会では任期満了となった滝澤進会長(61期)が「課題は若い世代に関心を持ってもらうこと。関東同窓会が都会のオアシス的な存在になるよう、皆さんに基盤づくりに尽力していただきたい」とあいさつした。新会長に高梨奉男氏(62期)、丸





関東同窓会で初めて演奏する吹奏楽団

山暢久幹事長（65期）の後任に倉沢裕氏（69期）がそれぞれ選出された。

隣の大ホールに移っての懇親会は、昨年度県代表として東海大会に出場を果たした上田高校吹奏楽班の現役40人が、関東同窓会で初めて演奏を披露。全日本吹奏楽コンクール課題曲のほかマーチや童謡などを演奏。クラリネットアンサンブルによる「となりのトトロ」メドレーなど次々と繰り出される素晴らしい演奏に、会場にあふれんばかりの参加者は聴き入り、大きな拍手を贈った。昨年創立60周年を迎えた吹奏楽班は、今年10月に上田でOB会設立総会を開くことも紹介された。演奏会の最後には65期の元応援団長らOBメンバー3人も登場、吹奏楽をバックに全員で校歌を4番まで斉唱した。

この後、会食に移り、参加者は久しぶりの再会に、時間のたつのも忘れて談笑した。

編集長 松本哲夫



元応援団のリードで校歌を斉唱